

『法然聖人の御詞（おんことば）にいわく  
「淨土をねがう行人は、病患（びょううげん）をえて、  
ひとえにこれをたのしむ」（伝通記様鈔）とこそお  
おせられたり。しかれども、あながちに病患をよろ  
こぶこころ、さらにもつて、おこらす。あさましき  
身なり。はずべし、かなしむべきものか。』

（御文 四帖目十三通 真宗聖典 八二九頁）

でしまったという感であつた。この事実は、生老病死という言葉を百万回聞くよりも、リアルに生老病死を身に受けることのできる一瞬となつた。私は、愚問と知りながら医師に「先生、このまま、手術を受けなかつたなら、どうなりますか」と言う私の問いに対し、「今のところ何処にも転移がないかもしません。しかし、骨や他の臓器に転移する可能性は残ります。今なら、手術をするということが可能であるということですよ。」と、からされ、同時にその問い合わせられた私自身のあさましさをヒシヒシと感じさせられたことであつた。天明期を代表する文人であり、御家人であつた大田南畝（おおたなんぽ）は、「いままではひとのことだと、思つたが、『癌はひとつがなるものだまらん』と、俺が死ぬとはこいつはたまらん」と、思うたに俺がなるとはこいつはたまらん」と、私は囁かずにはおれなかつた。

病気は、生活習慣や家系によることが多いと言われる。確かに考えてみると、親父も叔父も前立腺の手術をしたことと思い起し、自らの生活習慣を顧みる事もなく、先ず、家系に病気の要因を於いてしまう自分のあさましさを報された。

今後は、手術、治療の日々になることである。その日々の暮らしの、憂鬱と痛みと不安と恐怖の中、この病から、羞すべき、悲しむべき自らの事実と真向かいになることこそが、病をも無駄事に終わらせない、仏の智慧を賜わり、仏と共に歩むことのできる事であると、私自身思わせられることである。

光壽無量

第58号  
令和6年  
(2024年)  
1月2月3月  
発行：編集  
岡崎別院  
輪番 福田 大

法要の御案内	
八月十三日	一月一日 修正会
九月二十三日	三月二十三日 十時 春季彼岸会並永代経
秋	四月以降の主な法要予定
孟	七月二十五日～二十六日 瞳

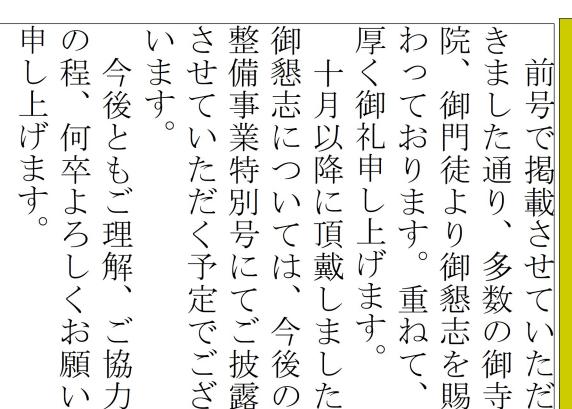
前号で掲載させていただ  
きました通り、多数の御寺  
院、御門徒より御懇志を賜  
わっております。重ねて、  
厚く御礼申し上げます。

十月以降に頂戴しました  
御懇志については、今後の  
整備事業特別号にてご披露  
させていただく予定でござ  
ります。

今後ともご理解、ご協力  
の程、何卒よろしくお願ひ  
申し上げます。

この度、東本願寺出版より、当院を会場として開かれた一楽真先生のご法話を基にした本、「親鸞入門」が発売されました。内容は、岡崎別院にて二〇一〇年四月から十二月にかけて、五回に亘って行われた「宗祖親鸞聖人の生涯に学ぶ」を基に発刊した書です。是非一度手に取っていただき、親鸞聖人の御生涯、歩みを通して、御教えに触れていただければ幸甚です。

ご購入は、東本願寺出版、又は東本願寺お買い物広場までお願  
い申し上げます。



「親鸞入門」著者 一樂真 東本願寺出版 真宗新書 全二四〇頁 價格九六八円(税込)



東本願寺出版



宗史蹟親鸞聖人岡崎草庵跡  
真宗大谷派(東本願寺)

# 岡崎別院

〒606-8335  
京都市左京区岡崎天王町26

電話 075-771-2921  
FAX 075-748-1665  
<http://okazakibetsuin.com>  
[info@okazakibetsuin.com](mailto:info@okazakibetsuin.com)

松岡

掲載があつたように、別院の報恩講が執り行われました。私自身にとつては、別院に入職して初めての、本堂でお迎えする報恩講でした。

当日、後堂で準備している時に、「お前にとつて報恩講とは何や?」という問い合わせをいただきました。別院の一大法要として、準備を怠らないことに気を使つていた自分が、真宗の一門徒として報恩講をお勧めする姿勢を見失つていた。その肝心なことを勤行の直前に気づかせていただいた、そんな報恩講でした。

列座のつぶやき



↑書院棟一階和室仏間 (48畳)



↑別院正面玄関

### 書院棟

足場が撤去され、内装のクロス張り、照明器具等も設置され、完成に近づいてきております。正面玄関は自動扉となり、玄関にもスロープが設置されておりますので、お足元の心配な方にも来ていただけるような設計となっています。



↑書院二階洋間 (48畳)



↑書院棟一階厨房

### 会館棟

書院棟に続き会館棟も足場が撤去されました。こちらはこれまでに無い新しい建物として、これまでの御門徒はもちろんのこと、新しい方々とのご縁を結ぶ場として開かれます。



↑会館棟一階法要ホール



↑会館棟正面

### 会館棟

書院棟に続き会館棟も足場が撤去されました。こちらはこれまでに無い新しい建物として、これまでの御門徒はもちろんのこと、新しい方々とのご縁を結ぶ場として開かれます。



↑会館棟二階納骨堂



↑会館棟控室の窓からの景色

### 境内

境内東側は以前のブロックが撤去され、木堀が設置されました。また、参道の石畳も敷直しが進んできております。



↑修復された御絵伝 (納品直後)

庫裡、境内地内は未だ工事の只中である為、御本山及び御法中の依頼はご遠慮させていただきまして、勤行は職員のみによるお勤めとさせていただきました。御法話は本明義樹先生（大谷大学講師・専光寺住職）より「聞思して遅慮することなれ」を講題としてお話しいただきました。

報恩講は真宗大谷派の宗祖であり、この



↑本明義樹氏による御法話

古くから真宗門徒は、各家のお内仏で報恩講を勤め、本山、別院、寺院の報恩講には必ず毎年お参りし、聴聞されてきた



↑本年度は福田輪番によって御俗姓が拝読されました。奥に掛かるのは、親鸞聖人の生涯が描かれた御絵伝です。

当院の工事は続いておりますが、通例の法要等は少しずつ戻ってきております。新しい本堂を法縁として、是非ご参詣、ご聴聞くださいます様、よろしくお願ひ申し上げます。

## 秋季彼岸会

お彼岸の中日（九月

二十三日）に当院の彼岸会法要が勤まりました。当日は福田輪番より「彼の岸と此の岸」を講題と

して御法話をいたしました。



前号でお伝えしました、別院本堂の還座式並びに庫裡上棟式を終え、棟札が本堂、庫裡ともに屋根裏に設置されました。本事業が別院の一大整備事業として、確かに記録されます。



←本堂の棟札も、本堂に庫裡上棟式を終え、棟札が本堂、庫裡ともに屋根裏に設置されました。



←書院棟の棟札も、本堂と同時期に書院屋根裏に設置されました。



←会館棟の棟札も、本堂と同時期に会館屋根裏に設置されました。